

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	東邦ガス不動産開発株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市熱田区桜田町19番18号
工場等の名称	今池ガスビル
工場等の所在地	名古屋市千種区今池一丁目8番8号
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	事務所、飲食店、小売業、ホール、会議室
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	2024年6月10日 ～ 2024年9月8日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場 所） 今池ガスビル10階 東邦ガス不動産開発株式会社 不動産事業部事務所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊 子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-732-3211		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

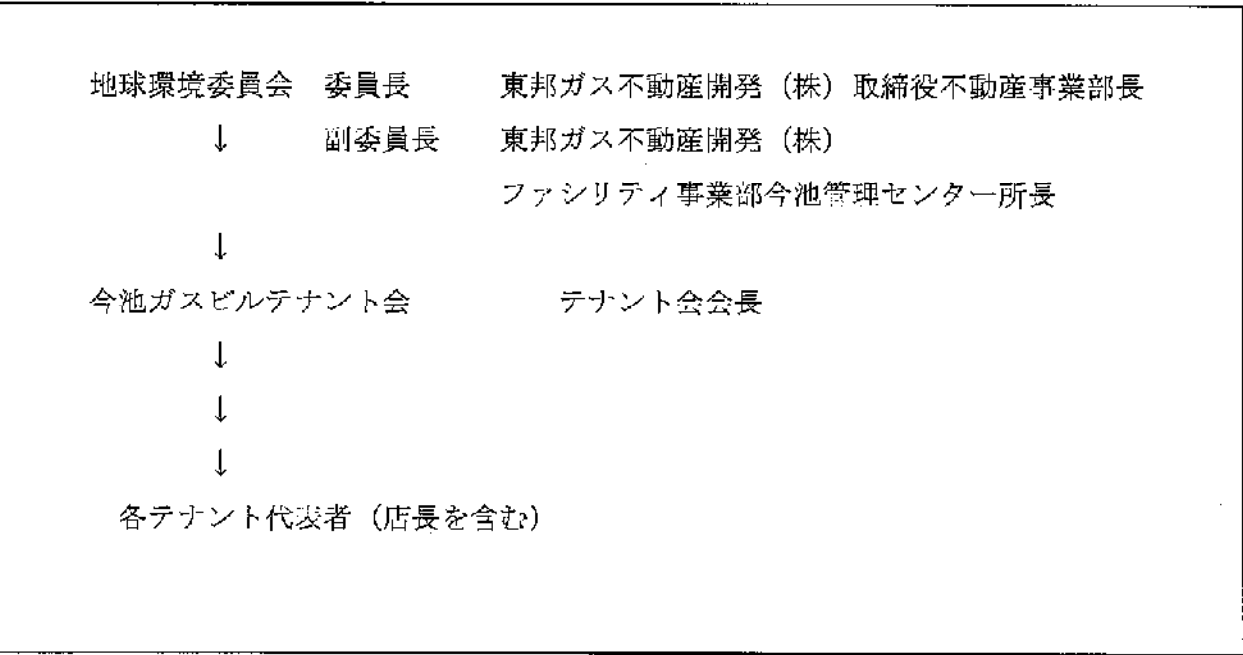
(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

＜基本方針＞

当社は、事業活動において地球温暖化対策をはじめ地球環境負荷の低減に努め、環境調和社会の実現に貢献します。

- 1. 継続的な環境改善
P D C A サイクルに基づく環境施策の継続的な改善をはかります。
- 2. 省資源・省エネルギー活動の推進
事業所で使用する電気、燃料等のエネルギー使用量を令和 6 年度までに令和 3 年度比で 1. 5 % 削減します。
- 3. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進
廃棄物の発生を抑制します。
- 4. 従業員への環境教育と社外への環境コミュニケーションの推進
従業員に対しては環境教育をすすめ、社外に対しては環境情報の公開をすすめます。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,200	t-CO ₂
(二室を酸効除炭ガス換算)	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,200	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量	1,280	t-CO ₂	1,261	t-CO ₂	1,222	t-CO ₂	1,200	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			1.5	%	4.5	%	6.2	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
原単位あたりの排出量		kg-CO ₂		kg-CO ₂		kg-CO ₂		kg-CO ₂		kg-CO ₂
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO ₂		kg-CO ₂		kg-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

温室効果ガス抑制の目標に対しては、充分な成果が見られる。特に月毎の電気使用量では前年度と比べて減少している傾向が見え、令和4年度に実施したLED化の効果が出ていると思われる。 空調用の熱の使用量については前年度と比較して、各月の日ごとの最高気温の平均値とおおむね相関関係があり、無駄な利用はしていないと思われるが、前年度よりも気温が高い月が多く、7～9月で熱の利用が大きく増加、12～2月で大きく減少している。しかし、11月に涼しくなるのが早く、3月も暖かくなってくるのが遅かったため、それぞれの月で温水の使用量が増加し、全体として空調用の熱の利用が約5%増加した結果となった。
--

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

指針第2号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容		取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源 空調設備	・空調機の外気冷房運転・循環運転など時期にあった省エネ運転の検討をする。 ・定期的に空調機のフィルターの清掃を行い空調効率の改善を図る。		・空調温度をこまめに調節 ・空調設備の運転状態を確認し、無駄な運転を改善する。	継続実施中
省エネルギー・省資源 空調設備	・機器更新時は省エネ機器を採用する。		・FCU更新を令和4年度までに実施。	更新実施済
省エネルギー・省資源 照明設備	・照明器具の更新ではLED化をすすめる。	・令和7年度までに可能な限り照明器具をLED化する。 概算省電力量 (令和4年度 B3F～B1F ▲32.8kWh/年 令和5年度 1F～6F ▲16.2kWh/年 令和6年度 7F～P1F、A・B階段 ▲24.5kWh/年 令和7年度 4～6F計画内 ▲28.3kWh/年)		令和5年度は計画通り1F～6Fの更新を実施した。 令和6年度は7年度計画分も前倒しして実施予定。 令和5年度4月～2月は前年度よりも毎月3千kWh/月以上の電気使用量の削減しており、LED化による省エネが成功していると思われる。
省エネルギー・省資源 OA機器	・コピー機・及びPCの節電機能を利用し、不使用時や離席時に自動的にスリープモードに移行させる。		・継続して行う。	継続実施中
省エネルギー・省資源 その他	・古いエスカレータを更新する。		・令和5年度までに実施する。 (令和4年度2台、令和5年度3台更新予定 概算省電力量 ▲8.2kWh/年)	令和5年度3台更新実施し、すべてのエスカレータを新しいものに更新完了
省エネルギー・省資源 その他	・近い階はエレベータを使用せず階段を利用する。		・継続して行う。	継続実施中
省エネルギー・省資源 その他	・電気はCO2排出係数の小さい事業者から購入する。		・平成28年に切替購入済み 継続して行う。	継続実施中
廃棄物の排出抑制	・廃棄物の減量をすすめる。 ・資源ごみの分別を徹底して資源化率を高める。 ・コピー紙の裏面利用をすすめる		・継続して行う。	継続実施中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・文房具、コピー用紙等の備品はグリーン購入品目を使用している。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・毎月8日の外出は、公共交通機関を利用に努めている。 ・毎月8日は、ビル内の移動は階段を利用に努めている。 ・毎月8日は、定時退社に努めている。
--